



## はじめに



会長／清水 正孝



理事長／新 欣樹

本財団は、平成2年7月1日の設立以来、電源立地を契機とした電源市町村の長期的かつ自立的な発展を、ソフト面を中心に総合的に支援するための中核的機関としてさまざまな事業を展開してまいりましたが、平成22年に設立20周年を迎えました。これは、国・電源市町村・電力会社といった関係者の皆様のご支援・ご協力の賜物であり、ここに厚く御礼申し上げます。

さて、本財団が実施してまいりました事業は、地域振興のための各種調査、観光や産品といった地域資源の開発・改良、企業誘致、人材育成のための研修、エネルギー問題等に関する啓蒙、シンポジウム等のイベントの開催など、非常に多岐にわたるものであります。

この成果事例集には、こうした本財団20年間の活動によって得られた成果の一例を近年のものを中心に収録しております。これ以外にも、本財団の活動が電源地域の振興・課題解決の一助となってきたものと自負しております。

多くの電源地域におきましては、少子高齢化・過疎化や財政健全化等の諸問題に対応するため、更なる地域振興のための支援を必要としているものと考えます。このため、今後も本財団は今まで培ったノウハウをもとに、電源地域のパートナーとして活動していく所存でございますので、引き続き皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

# 目次

電源地域振興センターの事業内容	1
-----------------	---

## 成果事例集

<b>1. 専門家派遣事業</b>	
(1) 薬膳料理の開発、販路開拓に対する指導助言【鹿児島県いちき串木野市】	2
(2) 「川底柿」を生かした商品開発【福岡県上毛町】	3
<b>2. 調査事業</b>	
(1) 間伐材(杉)の販路拡大・販路開拓【高知県馬路村】	4
(2) 温泉リゾート地域を対象としたつまもの販路開拓【徳島県上勝町】	5
(3) 地域資源を活用した地元産商品開発の検討【青森県十和田市】	6
(4) 企業誘致方策の検討【北海道岩内町】	7
(5) 廃校舎利用計画策定検討調査【佐賀県玄海町】	8
<b>3. イベント事業</b>	
(1) エネルギープラザの開催【福井県おおい町】	9
(2) でんきのふるさとフェア	10
(3) 震災復興総合イベント【新潟県柏崎市】	11
(4) 原子力発電関連施設見学会の開催	12
<b>4. 人材育成事業</b>	
(1) 問題解決・企画立案能力開発講座	13
(2) 先進地研修<地域資源を活かした観光まちづくり>	14
(3) 海外研修	15
<b>5. 産品・観光振興支援事業</b>	
(1) 産品相談・商談会	16
(2) 産品試験販売	17
<b>6. 企業誘致支援サービス事業</b>	
(1) 電源地域に進出した企業例 (株)フェアリーエンジェル【福井県美浜町】	18
(2) 電源地域に進出した企業例 薩摩川内うなぎ(株)【鹿児島県薩摩川内市】	19
<b>7. 広報事業</b>	
(1) 電気のふるさとの発行	20

## 電源地域振興センターの事業内容

本財団は下記の事業を中心に、さまざまな電源地域振興のためのソフト事業を総合的に実施することにより、「電気のあるさと」の活性化をお手伝いしています。



# 1. 専門家派遣事業

成果事例

## (1) 薬膳料理の開発、販路開拓に対する指導助言【鹿児島県いちき串木野市】 (平成20年度コンサルティング強化事業)

市として取り組んでいる「食のまちづくり」の一環として、薬草、薬膳料理の効能、市場について知識を深めるとともに、薬膳料理の開発を行い販路の開拓を試み、将来的には農業者の所得向上、後継者の養成につなげる方策を検討しました。

### 今後の事業の方向性について検討

- ・しっかりしたコンセプトを立て、推進体制を整理

### 薬膳料理研究講演会及び薬膳料理調理実習

- ・郷土食を薬膳の理論で組立直すことの意味を深め、試食

### 薬膳弁当等の開発及び祭りでの出店・販売

- ・薬膳弁当・薬膳うどんのレシピを完成させた後、2品をイベントで販売



薬膳弁当

薬膳うどん



【いちき串木野市 政策課 出水喜三彦さん】

身土不二・薬食同源の理念についての生活研究グループや商工関係者への講演からスタートし、「安心・安全」な地域食材を、その効能を活かした「郷土食」＝「ふるさと薬膳」として提供するというコンセプトを基本として、イベントでの「徐福弁当」、「薬膳かきあげうどん・つみれそば」と、特色ある料理を提供し好評を得ています。

平成21年度には「食のまちづくり条例」を制定し、行政・市民・事業者が一体となって食を通じたまちづくりを進めるなか、商工会議所では地元の食材を具材にした「薩摩おやき」の開発や、「串木野つけ揚げ」での地魚や旬の野菜使用などの商品基準化を図るなど、本事業で指導・助言をいただいた地域食材を活かした取組が引き継がれ、まちの活性化につながっています。

## 専門家派遣事業

### (2) 「川底柿」を生かした商品開発【福岡県上毛町】

(平成20年度現地指導会)

上毛町で古くから栽培されてきた固有種である川底柿（渋柿）の特産品化の確立を目指し、主として新たな用途と新商品の開発をおこなうとともに、併せて効果的な販売促進方法を提案しました。



柿畑を視察し、生産者より川底柿の説明を受ける。



川底柿の一次加工品「柿ペースト」を試験加工。



農商工と行政（町、県）の関係者10余名が集まった校討会議。

#### 【成 果】

- 渋抜き柿の渋戻り防止法を2通り提案した（冷凍保存、大豆タンパク添加）。
- 一次加工品「柿ペースト」を試作した結果、様々な用途に使える用途がたち、ストック化にも成功して、次年度以降も商品開発を継続できる下地が整った。
- 「柿ペースト」を使った二次加工品「ドレッシング」「シロップ」「和洋菓子」等の試作に着手でき、上毛町の新たな加工品・特産品開発が前進するきっかけが生まれた。
- 地元の柿農家、加工グループ、道の駅の農商工関係者による連携体制が実現できた。



上毛町 産業振興課農政係 石田豊後さん

指導を受けるまでは、川底柿振興に対して関係者が様々な意見を言うものの、それをどう活かすか、解決するかといった姿勢が欠けていました。また、担当職員たる私自身も、他の業務を抱えているため、締め切りのない漠然とした「川底柿の振興」業務についてどう対応して良いか苦慮していました。しかし、良いきっかけを得て川底柿振興に関する関係者の意思統一が新たになり、また食品加工に関する専門知識を持つアドバイザーを得ることで上毛町の悲願である川底柿の振興が現実味を帯びてきました。当指導を受けることができたことについて大変感謝しております。

## 2. 調査事業

### (1) 間伐材（杉）の販路拡大・販路開拓【高知県馬路村】

（平成14年度・平成15年度マーケティング調査事業）

江戸時代から良質の杉の産地で知られる馬路村も、安価な外国材に押されて林業が衰退していたところ、間伐材を利用して村おこしができないかとのアイデアが浮上し、商品化、販路の開拓・拡大のための調査を実施しました。

「トレイ」について検討した結果、これ以上の販路拡大は難しいと判断

間伐材を活用した新しいビジネスモデルの方向性を打ち出す

ホビー商品

生涯学習教材「編む・かなば」の商品化

インテリア商品

木のバック「モナッカ」の商品化

大きな反響



森の灯り



森のモナッカバッグ

馬路村 木下彰二さん

「モナッカ」は調査終了直後からチューリッヒやミラノ、パリ、フランクフルトでの展示会に積極的に出品し高評価を得ています。平成18年度にはグッドデザイン賞を受賞し、テレビ番組「ガイアの夜明け」でも紹介されました。いっぽう「かなば」は調査実施中から日本ホビーショーで大きな関心を得ており、現在も木のぬくもりと「安心な」クラフト新素材として介護施設での機能回復や環境教育の分野で小学校の授業に活用されています。平成21年末間伐材加工商品の売り上げは、2,100万円で取引業者は61社に至っており、加工分野では6名の雇用の創出に繋がっています。

調査事業を通じて、地元が主体性を持って電源地域振興センターやコンサルタントと共に真剣に取り組み、その基盤を作り上げることができた事がこのような結果につながっており、電源地域振興センターの支援には感謝しています。

(2) 温泉リゾート地域を対象としたつまものの販路開拓【徳島県上勝町】

(平成16年度マーケティング調査事業)

上勝町の主力産業として成功しつつあった、日本料理の季節感を演出する葉や花などの「つまもの」を販売する「葉っぱビジネス」の新たな市場として、全国の温泉地域への販売の可能性と効率的な販売方策を探る調査を実施しました。

目標1. 個別温泉地域の市場評価

目標2. 直販方式の妥当性の検証

検討委員会の立ち上げ

現状分析

アンケート調査及びヒアリング



いろいろが料理に花を添える。

**結論1** : 全国の温泉旅館につまものを直販することにより、相当量の需要を新たに喚起することができる。

**結論2** : 直販システムは十分な競争力が認められるが、いくつかの配送方法を組み合わせるなど工夫が必要である。



お年寄り達は積極的にPCを利用し、出荷状況、売上等情報を入力。



いろいろ 代表取締役 横石知二さん

立ち上げの時期から何度となく電源地域振興センターにお世話になってきました。

平成16年度に予約システムの改良を行い、現在では彩に加えて、香酸柑橘、葉わさび、いっきゅう(産直市)農家への情報提供を行っています。利用者数が多くなり内容も充実し、生産農家にとっては、なくてはならない仕組みになりました。的確な情報をキャッチできることから、個々の農家のレベルがあがり、日々の情報によって単価が維持できるので、所得が計算できます。新しい受発注のシステムも稼働しており、生産農家の大半が情報ネットワークシステムに加入して情報の見える化とコミュニケーションツールとして活用しています。彩類の売上げは2.6億円。この事業に対する視察者も多く、セミナーも人気で町内の活性化へと連動しています。

最近ではI(アイ)ターンも増えてくるなど、新たな動きも出てきています。

### (3) 地域資源を活用した地元発商品開発の検討【青森県十和田市】

(平成20年度マーケティング調査事業)

「食」に関する観光資源の掘り起こしと、全国発信への可能性を探るため、十和田市において、市民に昔から親しまれている「バラ焼き」に焦点を絞り、「バラ焼き」の観光商品化や地域おこしの素材の在り方について調査しました。

飲食店経営者や消費者へのアンケート／食の専門家を招いた勉強会の実施／先進地事例の調査



バラ焼きには地域おこしのための素地が十分あることを確認／「推進体制の構築」と「効果的な情報発信」について具体的アクションプランを提案



調査後

- 小山田市長が「バラ焼き」による地域おこしを支援
- 調査の検討会有志からなる市民活動団体が設立され、同団体は平成21年12月、「東北B-1グランプリ」に十和田バラ焼きを出品し、優勝



各種イベントにおける出品活動



東北B-1グランプリ優勝!!



十和田市長 小山田久さん

「十和田のまちを元気に」を合言葉に、市民活動団体「十和田バラ焼きゼミナール」が主体となり、十和田バラ焼きの普及・宣伝活動を関係団体と連携し展開したことによって、十和田バラ焼きの知名度は大きく向上しました。市では今後も、商工会議所などと連携をとりながら、この活動に対して、全面的に協力・支援を行って参ります。

電源地域振興センターのご支援に感謝しています。

(4) 企業誘致方策の検討【北海道岩内町】

(平成20年度企業導入調査)

港湾後背地に岩内港工業団地を造成したが、企業立地が十分に進んでいないことから、海洋深層水に着目した岩内町への企業誘致方策を検討調査しました。

全国における海洋深層水の活用動向

- ・市場動向
- ・海洋深層水商品製造事業者アンケート

立地可能性の高い業種の検討・市場動向

- ・海洋深層水商品の利用分野
- ・岩内地域の地域特性

他地域事例調査

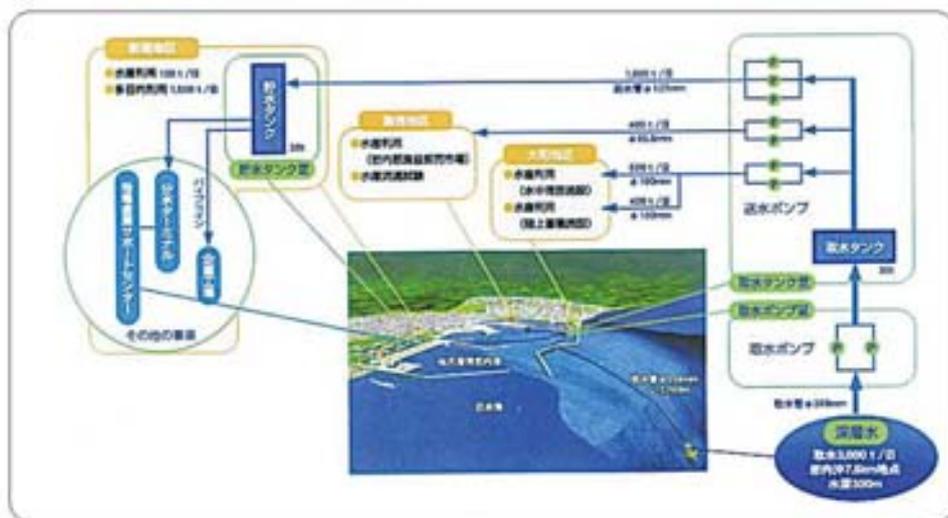
- ・三重県尾鷲市
- ・高知県

岩内町への立地意向調査

- ・企業立地をとりまく環境
- ・アンケート調査(訪問可能企業情報収集)  
1,000社(道内260、道外740、回答率8.1%)

試験研究機関などとの共同プロジェクトなど深層水に着目した企業誘致戦略を構築

【岩内町の海洋深層水取水と分配の流れ】



岩内町 企画経済部長 渡辺 隼二さん

フェリーの就航を機に工業団地を造成し企業誘致活動を開始したが、航路が廃止となり、新たな方策として海洋深層水を活用した企業誘致を目指し、これらを具体的に進めるため、平成20年度に企業導入計画調査を実施していただきました。成果として他地域への事例調査を参考に、企業立地促進法に基づく岩内・共和・泊・神恵内地域産業活性化基本計画を平成22年に策定し、これらも含めて、現在進めている企業誘致の戦略を構築することができ、地域が連携して活動を開始しております。電源地域振興センターのご支援に感謝するとともに、今後においても当電源地域の進展に貴センターのさらなるご支援を心からお願いいたします。

## 調査事業

### (5) 廃校舎利用計画策定検討調査【佐賀県玄海町】

(平成21年度振興計画策定調査)

就学児童の減少等の理由により発生した2つの廃校舎を活用する事業の可能性を調査して、地域活性化に向けた具体的な計画案を提案しました。

#### ■現状把握・整理及び課題抽出

文献調査、地域づくり団体へのヒアリング調査、町内外の事業者へのアンケート調査

#### ■先進地事例の調査

全国の事例収集  
(文献及びヒアリング調査)

■活用方法・活用団体の絞り込み（地域づくり団体との意見交換）

「廃校舎活用計画策定委員会」へ廃校舎活用計画案を提出



旧仮屋小学校



旧牟形小学校



玄海町 財政企画課長 古館保弘さん

おかげさまで、その後、地域コミュニティづくり、地域の防災、防犯等環境づくりに関する事業などを行い、町民の融和と親睦を深め、豊かな地域社会の実現を図ることを目的に、旧仮屋小学校と旧牟形小学校は「仮屋コミュニティセンター」「牟形コミュニティセンター」の名称で新たな施設として生まれ変わりました。そのうち、「仮屋コミュニティセンター」には、未来を担う青少年の健全育成と町民の皆さんと一緒に学校教育を支援する「玄海町教育支援センター・あっとむ」を設置して運用を開始しております。

### 3. イベント事業

#### (1) エネルギープラザの開催【福井県おおい町】

(平成21年度開催)

平成2年の本財団設立以来、電源地域の自治体職員等を対象として、事例の紹介や情報提供等によって、地域振興に係る実践力を高め自治体職員間の情報交換を行う「エネルギープラザ」を国から受託し、20年間にわたり実施してきました。



開会式



現地意見交換会



おおい町 企画課 東幹泰さん

- \* 今回のエネルギープラザは、分科会中心の集中学習のため参加者にとっては実のある学習ができ、私達の地域振興に活かせるものもあったと感じています。
- \* 全国の原子力地域関係者が集う年に一度の貴重な機会であるので、何らかの形でこのような研修会が今後も継続できるとよいと思います。



参加者の声 (参加者アンケートから)

- \* 販売していく商品等の魅力を掘り下げて、どのようにPRしていくか、またお客様のニーズにどのように応えていくかを考えるヒントをいただけたように思います。
- \* 今回のエネルギープラザでは、既存の施設等を活かした地域住民との協働による活性化や地域づくりの先進地事例の発表があり、大変参考になる事例でした。



ワークショップ

## イベント事業

## (2) でんきのふるさとフェア

(平成19年より開催)

電源市町村の豊かな自然や文化、また、そのような環境の中で生産された地域産品を電力消費地である首都圏や地方中核都市の消費者に紹介する大型物産展「電気のふるさとじまん市」を本財団設立当初から平成19年まで実施してきました。

それ以降も、個別原子力施設立地地域を対象に電力会社等から委託を受け、「でんきのふるさとフェア」として各地の観光情報や特産品情報の提供、物産販売を支援するイベントを開催するなど、これまでのノウハウを活用しています。

また、会期中に大手百貨店等のバイヤーを招き特産品の相談・商談会を行うなど、その後の販路拡大や商品力向上に向けての支援も行っています。



でんきのふるさと青森下北半島げんきフェア



でんきのふるさと新潟 柏崎刈羽げんきフェア



## 出展者の声

- \*洗練された首都圏の「舌」に直接接することができたことに加え、商品の売れ行き自体も好調だったことから、出店した事業者が今後首都圏で販路開拓を目指す上で、貴重な経験と自信を得ることができました。(でんきのふるさと青森下北半島 げんき祭から)



## イベント来訪者の声

- \*青森は海の幸、山の幸に恵まれているなど感心しました。三内丸山が栄えていた理由もわかる気がしました。(でんきのふるさと青森下北半島げんき祭から)
- \*福島県を身近に感じることができる楽しいイベントでした。ありがとうございました。来年の家族旅行は福島にしようと思います。(でんきのふるさとげんきフェア@福島県浜通りから)
- \*新潟はとても素敵なおところだという印象を受けました。ぜひ行きたいです。(でんきのふるさと春の新潟げんき祭から)

## イベント事業

### (3) 震災復興総合イベント【新潟県柏崎市】

(平成21年度開催)

新潟県中越沖地震の発生に伴う柏崎刈羽原子力発電所のトラブルにより、客観的な事実に基づかない風評の流布によって特産品や観光等に被害を受けた柏崎地区に対して、国からの委託を受けて支援事業を実施しました。

#### 実施した4つの支援プログラム

##### ●現地産品商談会



バイヤーによる特産品改良のアドバイス

##### ●現地視察会



市内の味噌製造現場を視察するバイヤー

##### ●物産キャンペーン



物産展で柏崎ブースに並ぶ来場者

##### ●海水浴キャンペーン



キャンペーンイベントで実施した抽選会



#### 柏崎市長 会田洋さん

このたび当市の風評被害対策事業の支援として、7月18日から20日までの3日間、「海の柏崎 快水浴キャンペーン」を取り組んでいただきましたことに深く感謝申し上げます。

これにより、長野県、群馬県、埼玉県という当市では最も利用客が多く、かつ馴染みの深い三県の皆様に対し、柏崎の海やイベントをアピールすることができました。

おかげさまで海水浴客につきましては、去年は震災前の7割まで復活し、今年度は100万人を目指して、取り組みを展開しています。

これもひとえに電源地域振興センターのご協力のおかげと感謝致しております。大変ありがとうございました。

### (4) 原子力発電関連施設見学会の開催 (平成19年度より開催)

国からの受託事業として、電力消費地域の教職員、自治体職員及び消費者団体等のオピニオンリーダー等を対象にした原子力発電施設の見学会を実施し、原子力の必要性、安全性についての理解の促進を図ってきました。見学会終了後、参加者への事後アンケートにより、高い実施効果のあることが認められています。

原子力発電所の他、訓練センター・原子燃料工場や原子力発電所との共生施設等、より理解を深めていただくようコースを設定し実施しています。



中部電力(株) 研修センター



関西電力(株) 原子力訓練センター



中部電力(株) 原子力館



#### 発電所見学会参加者の声

- \* 発電所見学により自分自身にとってのエネルギーに対する考えや安全性への認識を新たにすることができた。今回の見学会は市民に開かれた大変良い企画であった。(柏崎刈羽原子力発電所見学会から)
- \* 温暖化が進むように思われる状況の中で環境にやさしいエネルギー源という認識を深めました。(大飯発電所見学会から)
- \* 原子力発電の大切さを環境学習の一つとして伝えるとともに、エネルギーについて考える子供を育成していきたい。(浜岡原子力発電所見学会から)
- \* 自分たちの毎日の電力がこのように供給されているとわかった。小さなペレットが膨大な電力の供給源であることが印象に残った。(東海第二発電所見学会から)

## 4. 人材育成事業

電源地域が長期的かつ自立的に発展するためには、地域づくりの中心となって地域の活性化を支え活躍する人材の育成が不可欠です。

本財団では電源地域の振興・活性化を担う人材の育成を支援するため、電源市町村の職員、農協・漁協・商工会などの各種団体職員や住民を対象に、研修事業を継続して実施してきました。

### (1) 問題解決・企画立案能力開発講座

地域づくりの中心となり活躍する行政職員等の方々が、企画立案等実務能力（自ら問題を発見し原因の分析や対策を講じることができる能力）の向上を図ることを目的に、受講者自らが各地域において抱えている問題（課題）の抽出から具体的な解決方法の立案に至るまでの過程を、実践的トレーニングやグループワークを通じて学ぶ研修を実施いたしました。



グループワークによる実践的指導状況  
(平成21年度研修：本財団会議室)

#### 問題解決・企画立案能力の必要性

**STEP1** 問題の設定 ← 演習

**STEP2** 現状把握 ← 演習

**STEP3** 目標設定 ← 演習

↓  
問題解決  
企画立案能力の向上



#### 研修参加者の声

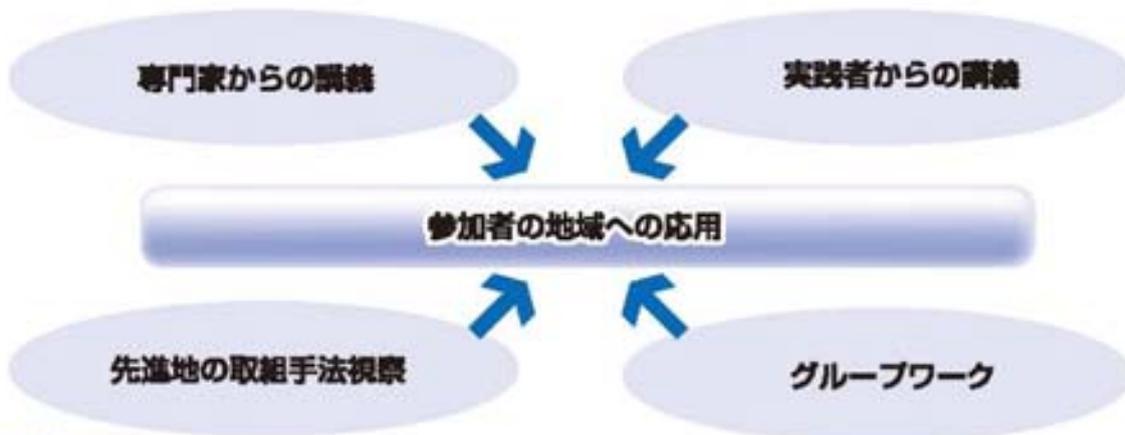
- \*これまで各地でさまざまな研修を受けたが、このように実務ですぐ活用できる研修は初めてでとても勉強になりました。いろいろな場所で応用することができ、これから物事を整理するときに積極的に今回の研修で学んだ手法を使っていこうと思います。
- \*ショートケースや自分の事業にあてはめて演習したことで、よりイメージすることができ、理解しやすかったです。常に意識して活用して自分のものにしていきたい。期待どおりの研修を受けることができ良かったと思います。

## (2) 先進地研修<地域資源を活かした観光まちづくり>

地域づくりを担う行政職員等の方々が、魅力あふれる個性豊かなまちづくりを実践するための各種方策を検討するにあたり、地域資源を活かした観光によるまちづくりを実践している先進地を実際に視察することにより、その理念や具体的な取り組み手法を学ぶ研修を実施いたしました。



「妻籠を愛する会」案内人による妻籠宿フィールドワーク  
(平成21年度研修：長野県 南木曾町)



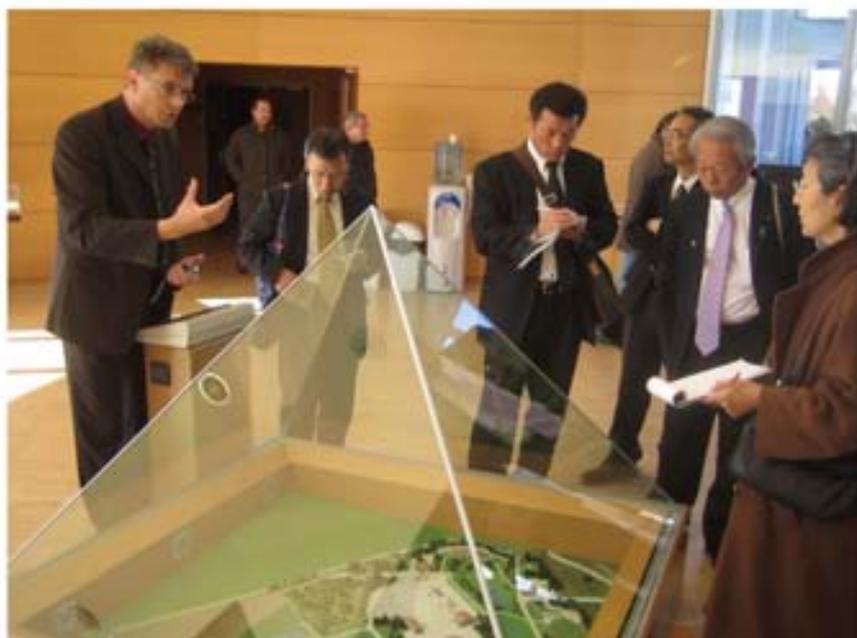
### 研修参加者の声

- \* 高いレベルで、すぐ役に立つ研修であった。ルールづくりやその徹底、観光ボランティアガイドの組織構成等を参考といたしたい。
- \* 他地域の方々との交流、観光振興全般の学習、フィールドワークなど、とても勉強になりました。地域のメンバーでフィールドワークができる機会を作りたいと思います。
- \* 自分の地域の資源を見つめ直すよききっかけとなり、地域づくりをしっかりと行っていく必要があると感じました。

### (3) 海外研修

海外における原子力発電施設、核燃料サイクル事業等に係る施設を視察し、わが国の原子力政策について理解を深めるとともに、地域とエネルギー関連施設との共生策等を学ぶ研修を実施いたしました。

また、あわせて海外における地域振興の先進事例等を視察し、その理念や取り組みの手法等について学びました。



ビュール高レベル核廃棄物  
地下研究所の視察状況

※写真はいずれも平成21年度研修：フランス



マルクール・サイトPR館ビジアトムの視察状況



ビュール地域情報委員会との意見交換会の状況



#### 研修参加者の声

- \* 研修参加前はエネルギー関連にそれほど関心が無かったが、帰国後は問題意識を持つようになり、自分自身の変化に驚いています。実際に目で見て体験することの意義を実感している次第です。
- \* より多くの若手職員がこのような海外研修において貴重な経験を積めば、10年、20年後の原子力行政が大いに飛躍するのではないかと思います。

## 5. 産品・観光振興支援事業

### (1) 産品相談・商談会

電源地域で生産された特産品を大手の百貨店や食品専門店・スーパーのバイヤーに直接評価してもらい、開発・改良や販路開拓についての具体的なアドバイスを受けるとともに、商談の機会を提供しています。また、デザイナーによるパッケージデザイン相談も実施しています。

#### 事例

- 【事業者】長崎県西海市 咲き都みとこの会 ホテル咲き都  
【実施日】東京会場：平成21年11月18日(水)  
福岡会場：平成21年11月24日(火)  
【実施会場】東京会場：電源地域振興センター  
福岡会場：福岡銀行本店  
【参加産品】レモンステーキ弁当、伊勢海老弁当、  
崎戸プチバーガー



バイヤーとの面談風景

#### 成果

- ① 京王百貨店……九州物産展に出店。バイヤーが現地へ赴き、商工会・観光協会・青果組合・漁業組合などと交流を持つ。産品相談・商談会に参加した産品に加え、西海市の特産品（海産物・農産物）を同時に販売。地域全体の認知度を高めることに成功した。
- ② 阪急阪神百貨店……九州物産展に出店。  
（西宮店、北花田店）
- ③ 三越……長崎物産展に出店。  
（福岡三越）
- ④ 大丸……九州物産展に出店。  
（下関大丸、高知大丸）
- ⑤ 福屋……催事出店を検討中。



京王百貨店の中吊広告

#### 京王百貨店 スーパーブランニングエキスパート 竹内浩介さん

西海市の豊富な食材に注目した。現地で数々の特産品に触れ、可能性を感じた。チラシでは伊勢えびを前面に出し、クエの解体ショーも実演した。地元産の野菜も販売し、西海市全体をPRした。新しい取組み（他社でも扱っていない）が出来たことは大きな成果でした。西海市の更なる盛り上がり期待したい。

#### ホテル咲き都 代表取締役社長 山下三男さん

産品相談・商談会へ参加したことをきっかけに催事へ出店し、首都圏の消費者へPRすることができたと同時に購買の傾向も知ることができました。催事で刺激を受けたことで地域の生産者の意識に変化が現れた。「特産品を販売する店を作った」「物産協会を立ち上げる予定」など、貴重な第一歩を踏み出せたと感じています。

## (2) 産品試験販売

大手の百貨店・スーパーの食品売場や催事場の一角に販売スペースを設け、電源市町村内の特産品生産事業者が実際に1週間程度の販売を行い、販売や試食を通じて消費者から直接評価を得るという「産品試験販売」を実施しています。



イトーヨーカ堂 木場店における実施風景



お客様への販売風景

### 事例

【事業者】：長崎県長崎市 株式会社 珠の里

【実施期間】：平成19年9月5日(水)~10日(月) 6日間

【実施会場】：イトーヨーカ堂 木場店 1階 催事場

【参加産品】：豚角煮まんじゅう、豚角煮そばろ、長崎煮干し



珠の里 嶋秀樹さん

本事業に参加した理由は、生産者が自ら販売し、消費者の生の声を自ら体感することが出来る事業であり、首都圏をターゲットにしている当社としては、知名度の向上と消費者の味覚調査を目的に参加しました。

多くのお客様にご試食いただいた結果3割近いお客様から少々甘いと言われ改良の余地を感じました。当時、自社工場を設立し本格的に稼働し始めて間もない頃であり、そのご意見を元に珠の里の製品のベースとなる出汁を完成させることができました。

また、会場でイトーヨーカ堂のバイヤーより、「自店舗にいかに来ていただけるかを第一に考えること。首都圏はそれから。」とアドバイスをいただき、まずは、地元の人にお店のリピーターになっていただく、買っていただく為、事あるごとに試食いただき、多方面からの意見を参考にし、改良に改良を重ねた結果「角煮入りいかめし」が、今年、第41回長崎県特産品新作展最優秀賞を受賞することができました。

## 6. 企業誘致支援サービス事業

電源市町村における工業団地等への企業誘致促進のため、積極的かつ効率的に企業誘致活動を実施してきました。広報活動として、新規立地計画企業等に、電源地域の優遇制度をPR、立地意向アンケートの実施、誘致のためのパンフレット作成と配布、ブース出展を行ってきました。また、立地意向のある企業を訪問し、電源市町村を紹介し、更に有望企業については再訪問しました。優遇制度の情報発信可能性のある団体とも情報交換に努めてきました。

### (1) 電源地域に進出した企業例 (株) フェアリーエンジェル【福井県美浜町】 (平成20年度立地)

人工光源を利用した無農薬野菜工場を建設、運営する企業。季節や天候に左右されることなく、安心・安全な野菜を通年で安定的に生産することが可能となります。同社と電源地域の電気料金割引等優遇制度について情報交換し、また、自治体に紹介しました。

#### 【福井県美浜町への進出理由】

- 原子力発電施設等周辺地域企業立地支援事業（通称F補助金）などによる大幅な電気料金の割引など優遇制度
- 自治体からのバックアップ体制の充実
- 農業への造詣が深い土地柄
- 関西、中部圏へのアクセスが良好で、今後早期に更なる改善が見込める。



人工光による野菜工場での栽培

フェアリーエンジェル 代表取締役社長 江本謙次さん

事業推進のテーマは、食の安全と食糧自給率の向上。そして、CO<sub>2</sub>削減への取り組みに賛同。弊社は、カーボンオフセットの観点から、環境に配慮した「農業の工業化」を進めています。完全閉鎖型の植物工場は「電気」と「水」があれば操業が可能ですが、環境を無視したインフラでは意味がありません。CO<sub>2</sub>を排出しない原子力発電と弊社の思想が重なり、安全・安心でエコな無農薬野菜が全国に広がって参ります。

電源地域振興センターの支えがあったからこそ、新たな事業創造が叶い感謝する次第です。

## 2) 電源地域に進出した企業例 薩摩川内うなぎ(株)【鹿児島県薩摩川内市】 (平成 22 年度立地)

広島県に本社を置く備後漬物は、薩摩川内産のウナギを中心としたかば焼き製品製造のための100%子会社「薩摩川内うなぎ(株)」を設立し生産を始めました。同社はIH式の電気ヒーターを多用していますが、これは本財団との電源地域での電気料金割引に関する情報交換を経て決断されたものです。なお同社の製品は市の推奨品マーク「薩摩川内スピリッツ」使用商品の第一号となりました。



工場全景



薩摩川内うなぎの製品



蒸し・加熱水蒸気中間工程



I H式焼きライン機

### 薩摩川内うなぎ 代表取締役社長 佐藤豊太郎さん

鹿児島県は長く国内うなぎ生産量の1位、2位を誇っている県です。当社は薩摩川内市のうなぎを柱に、産地の明確化を図り、得意先に信頼されるものづくりを徹底いたします。

加工場の焼きラインは、備前炭に一番近い波長を持つIHヒーターを多用しております。うなぎの加工場では、ガスで焼くケースが多く、味の点では電気が勝ることは分かっていますが、多くの加工業者が見送ってきたものでした。電源地域振興センターの支えがあったからこそ、新たな事業創造が叶い感謝する次第です。

## 7. 広報事業

### (1) 電気のふるさとの発行

(平成17年度～ 電源地域の広報媒体の発行)

「電気のふるさと」は、電源地域の広報誌として、電源地域の自治体職員、地域の産業活性化などに取り組んでおられる民間団体等を対象に、地域振興のヒント・参考となる事例や本財団の活動状況等を紹介しています。平成21年度は約2,500箇所へ約7,500部を配布しています。



電気のふるさと・六ヶ所村の幻の焼酎「六趣」を取り上げた記事



「青森県六ヶ所村特集号」の読者からの声

VOL18 (平成21年12月発行)

\*今回は隣の六ヶ所村の「六趣」を取り上げていただきありがとうございます。六ヶ所村の応援団としては、そう思わずにはいられませんでした。地元でもなかなか飲むことができない「六趣」ですが、少しでも全国に向け情報発信されることは嬉しく思います。これからも地域の頑張りを紹介して下さい。(青森県三沢市 職員)

\*捨てられていた長芋で「幻の味」が出せたということに、とても興味を持ちました。一度味わってみたいものです。(和歌山県海南市 職員)